

令和8年度 第1回放課後対策事業運営委員会会議録

1 開催日時及び場所

令和8年7月13日（月）午前10時～午前11時25分
射水市役所本庁舎4階 会議室401

2 出席者

【委員】

浅野委員、井口委員、小川委員、吉野委員、青山委員、長澤委員、竹内委員、
佐藤委員

【事務局】

生涯学習・スポーツ課 吉住係長、稲田主査、新井主任、吉田コーディネーター、
中コーディネーター、折橋コーディネーター
学校教育課 川渕課長補佐

3 会議概要

（1）開会

（2）委員長、副委員長の互選

（3）議事

【説明事項】

放課後児童クラブの概要
放課後子ども教室・土曜学習推進事業の概要
コミュニティ・スクールについて

（4）放課後対策事業に関する意見交換

（5）閉会

4 意見交換

【委員】

- ・中太閤山小学校の遊び場開放事業について、放課後児童クラブで遊ぶ際の安全面のノウハウをお伝えして、子どもたちはたくさん参加してとても楽しそうに遊んでいる。これまでは高学年の児童だけが体育館を使えるルールだったが、1年生から6年生まで利用できている。放課後児童クラブに登録している児童は、遊び場と放課後児童クラブの終了時間はあまり変わらないため、遊び場に行く日はそのまま家に帰る傾向にある。
- ・放課後活動支援について、資料では学校運営協議会が主体となっているが、私達は主体ではなくオブザーバー的な位置だと思っている。主体となると、運営から何から全部責任を負わなければいけなくなる。学校運営協議会の委員もしており、その負担がとても強く、他の放課後のコーディネーターの方が一生懸命やっておられるが、負担が大きいように感じる。
- ・運営主体は市だと思っていた。市がいろいろなことをしてくれて、ある程度中太閤山モデルみたいなものを他の小学校さんで踏襲していけば大体こういう形で遊び場事業ができるという形になると思っていた。資料を見ると、各学校の方が中心となって進めていかなければいけないように感じた。

- ・コーディネーターの持続可能性を考えると、今後このような荷が重いことをやったださる方がいるか危惧している。放課後児童クラブも、支援員が辞めたら次の人材が入ってこないため、同じような状況になるのではと心配している。
- ・放課後児童クラブの登録人数自体は減らない傾向にある。働いている保護者が増えているため、遊び場開放事業に関わってくれる方がいるかはわからないが、学習参観日は仕事を休むため、その日に遊び場開放の様子を見てもらい、一日でも関わるができる保護者が出てくると良い。
- ・遊び場開放事業の見守り員の保護者の中には、卒業生の保護者や放課後子ども教室のサークル活動に関わってくださっている方もいる。
- ・持続可能に進めていくためには、ボランティアの気持ちだけに頼るのではなく、誰かにだけ負担がかからないようにトライアンドエラーで改善していく必要がある。
- ・何か起きた時にどう対応するかが大事。子どもたちが慣れて自我が出てきた時にどうなるかわからない。簡単な気持ちや子どもが好きという理由だけでできる有償ボランティアではないと思う。
- ・やったほうがいい事業だと思っている。子どもたちはとても楽しそうに遊んでいる。

【事務局】

- ・学校運営協議会には、企画をお願いしたい。運営自体は、各学校、地域の実態に応じて変わってくる。委員の方から見守り員の募集に声かけをしてもらうため、中心になる人がいないとなかなか難しい。
- ・次の担い手が育ってほしい思いもあり、協議をしてほしい。遊び場開放事業は魅力のある事業だと考えているため、保護者世代に協議に入ってもらい、中心となる方が出てくると良い。
- ・教育委員会がどのようにかかわっていくかは課題であり、今年度、中太閤山小学校でいろいろと教えていただいた。

【委員】

- ・遊び場開放事業の見守り員は有償か。保護者も働いている中で、どれくらいの方が協力してくれるか。PTA 活動や地域の活動も、1 人が多くの役職を担っており、地域が疲弊している。
- ・コミュニティセンターで空いている集会室があれば使わせてあげたい気持ちもあるが、公民館保険の手続きや連絡対応などをしなければならず、何かあった時に保護者などに連絡をとらなければならないため、職員に負担がかかる。どうしていけばクリアできるか。
- ・自己責任とは言っているが、保護者から責められることもあるのではないか。

【事務局】

- ・見守り員は有償で、学校ボランティアは学校の先生の補助ということで無償である。
- ・見守り員は、保護者から 10 名程度手を挙げていただいた（卒業生の保護者もいる）。
- ・遊び場開放事業の保護者同意書には、責任の所在について記載しており、署名してもらっている。
- ・学校の管理外で、地域の公園で遊んでいるという考え方と同じである。
- ・学校施設における遊び場開放事業であり、コミュニティセンターで実施する予定はない。

【委員】

- ・見守りとは、どの程度まで見守るのか。
- ・ボランティアは、誰かのためにという犠牲的なものだけでなく、自分が楽しいと感じなければ長続きしないと感じている。何かを成し遂げて、自分自身の楽しみやみんなに会える喜びなどがなければ長続きしない。何に喜びを感じるかは人それぞれだと思うが、配慮や考えがあればいいと思う。
- ・遊び場開放事業の活動終了時間について知りたい。日没が早い時期などはどうするのか。

【事務局】

- ・見守り員は、子どもが怪我をした場合は消毒して絆創膏を貼る程度で、病院に行く必要がある場合は保護者に連絡して対応してもらう。救急車を呼ぶ場合は、学校にも情報伝達や連携、協力が必要。
- ・基本的には子どもの自主性に任せるが、危険なところにはルールがあるため、ルールから逸脱している場合は声をかけてほしい。何回か実施したが、怪我やトラブルは起きていない。
- ・活動時間は大体 16 時 30 分までと考えているが、学校の実態に合わせて協議していただきたい。
- ・見守り員の募集のチラシは、小学校内だけではなく地域の皆さんにも回覧した。保護者が 10 名弱、地域の方が 2~3 名だった。
- ・今後の見守り員の募集については、9 月ごろまでに、令和 9 年度の遊び場開放事業の実施の意向を聞くため、その学校数にもよる。一度に募集するより、徐々に募集することになると思っている。
- ・スクールバスがある校区は、バスを降りた先で、地域振興会で何か事業をしてもらうかといった話もしている。
- ・地域の実態によってやり方は変わるため、一概には言えない。無理にやっていただく事業ではない。

【委員】

- ・放課後子ども教室に、学校の先生も様子を見に来てくださる。教頭先生や校長先生も気にかけてくださっていて学校ともいい関係になっていると思っている。先生が来ると、子どもの姿勢が変わる。
- ・手がかかる子もいるが、専門家ではないため、ただ地域のおばあちゃんとして怒るしかないため申し訳ない。
- ・先生方の助けと、市役所の方の助けで頑張ることができている。

【委員】

- ・いろいろなことに気を遣って子どもたちと接していくのは、大変なことだと感じている。

【委員】

- ・放課後子ども教室のサークル活動を通じて、子どもたちの特徴をわかっている必要があることがわかった。昨今いろいろな子どもたちがいて、落ち着いて話を聞ける子とそうでない子と、やりたいことに行く子がいる。怪我させないことを前提として、学校の授業とは違い、楽しんでもらいたいと考えているが、怪我や喧嘩させてはいけなく意識して見るのがすごく大変だとわかった。
- ・子どもたちに対してどの程度まで関わったらいいか。例えば 1 時間ずっと泣いている子がいるとそこに関わることはできないので、どうしたらいいかと思う。学校の先生方もたまに見に来てくださるが、推進員は 2 名体制のため、本当に大変で、関わってくれる見守り員のような方が何人かいてくださるとすごく助かる。
- ・放課後に少しでも心がほっとする場所になってもらいたいと思っている。

【委員】

- ・昔は喧嘩の間に入っていたが、最近はじっくり一人ひとりの話を聞いて対応しなければいけないこともある。当学級は支援員が多いため、トラブルにかかりきりになっても他の 2、3 人が見てくれる。
- ・子どもたちは、元気で汗だくになって体育館でドッジボールすることが大好きで、遊び場事業がない日は体育館を利用し、15 分遊んだら 5 分休憩とメリハリをつけて過ごしている。

5 小学校からの意見・要望・感想

【委員】

- ・中学校は、放課後に部活動があることもあり、放課後児童クラブやサークルを身近に感じることは少なかったが、子どもたちが小学校の頃からこんなにもお世話になってきたのかと感じた。
- ・最近子どもたちや保護者を感じている難しさを、皆さんも同じように感じているとわかった。
- ・地域の方が子どもたちを支えていただくからこそ、子どもたちは元気に学校に来ることができ、家で楽しく生活できている。福祉的な役割を担っていただいている皆さんに感謝を申し上げる。
- ・地域、親、学校、行政の4つが手を携えていながら、子どもたちのできることをどんどん増やして成長していける場を作っていくことが大事だと思った。学校としても気にかけていくことを大切にしたい。そして、私たちを支えてくださっている方がいることを知ることでも大事だと感じた。
- ・部活動については、当中学校は全校生徒が640名程度で、そのうち部活動に参加している生徒が530名いる。それ以外の約110名は部活動に参加していない。クラブチームに参加している子もいれば、何もせずにそのまま帰宅して勉強を頑張る子もいる。
- ・部活動に参加している530名は、平日は学校の部活動に参加し、土日は地域展開という形で地域クラブに参加しながら活動している。
- ・学校単位でしか参加できない競技がいくつかある。強化練習会に学校単位で申し込まなければならない競技もあるが、原則土日は地域の指導者または指導者に登録している教員が指導している。
- ・部活動の地域展開と非行の関係性について、傾向は変わらない。地域性もあり、地域の方にお叱りやご指摘を受けることはある。

【委員】

- ・委員の皆様の話を聞き、大変さに共感した。
- ・子どもたちは学校が終わって、放課後児童クラブやサークルに行く時に楽しそうで、学校にいる時の姿とは別の姿を見せていると思う。
- ・危険なこともあったりと、皆様にたくさんお世話になっていると感じ、ありがたい。保護者も、きっと見ていただけていることに感謝されていると思っている。
- ・今後ともまたご協力いただきたい。家庭の力がこの中に入ってくるよう、声かけなど学校でできることも少しずつさせていただきたい。

6 行政側からの意見・要望・感想

【委員】

- ・子どもたちの放課後の居場所の確保や活動にご協力いただき、感謝を申し上げる。貴重なご意見をいただき、放課後子ども教室や放課後児童クラブ、それぞれ子どもの様子がこれまでとは少しずつ変わってきていると実感した。
- ・委員の皆さんからいただいたご意見などを参考にしながら、人材育成として子どもたちを育てていくための研修会をどのようにすればいいのかということに繋げていきたい。
- ・支援員の高齢化が問題になっており、今後次の担い手が重要になってくると思っているため、今後とも皆さんの協力をお願いしたい。

【委員】

- ・放課後児童クラブや放課後子ども教室という形で子どもたちの居場所作り、日々子どもたちに寄り添いながら活動していただき、感謝を申し上げる。
- ・教室の中では先生という立場であると思うが、専門的な先生、学校の教師というわけにはいかないため、地域の一員として、子どもたちが地域の中でこういうふうに大きくなってほしいという思いを持ちながら、接していただければと考えている。
- ・子どもたちも悩みを持っていたり、家庭に何か原因があったりすることもあるため、学校の先生と

も連携していただきながら、これまで以上に子どもたちに寄り添って活動していただきたい。

- ・ 中学校については、これまでは学校単位で部活動として大会に出場していたが、生徒数が少なくなっているなかで単独でチーム編成できなくなっていることや、先生の働き方改革ということで、クラブチームで出場する競技もある。射水市では、休日は地域クラブとして活動していただいているが、令和 13 年度末までに、平日も含めて地域展開という形で地域に委ねてクラブ化していく。
- ・ 子どもたちが学校部活動に参加しづらくなったり、放課後の時間を持て余すような形にもなりかねない。たとえばコミュニティセンターでやっている事業に子どもたちが参加したり、子どもたちを対象にした教室を開催していただくなどして、小学生だけでなく幅広く中学生についても目を向けていただく機会が出てくると思われる。

(午前 10 時 00 分開始、11 時 25 分終了)